

老健

2022.5

ROKEN



公益社団法人 全国老人保健施設協会



特集

withコロナ時代の 老健施設の地域貢献を考える

Close Up 老健

介護老人保健施設ゆうあい(岡山県)

この人に聞きたい 老健へ一言

松岡洋子さん

東京家政大学人文学部教育福祉学科 教授

理念と役割

介護老人保健施設は、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

包括的ケアサービス施設

1

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

2

リハビリテーション施設

体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。

3

在宅復帰施設

脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。

4

在宅生活支援施設

自立した在宅生活が続けられるよう、介護予防に努め、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他サービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。

5

地域に根ざした施設

家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。



高橋 肇
全老健 常務理事

羅針盤

史上最恐のウイルスで 思うこと



2007年、地域医療介護連携ネットワークシステムをITベンダーとともに創り上げた。2008年、総務省u-Japan大賞（「u」はユビキタス）受賞、その後システム使用率は全国トップとなり各地で講演を行うきっかけともなった。

その際に病院管理者から質問としてあがった上位が、「プライバシー」と「セキュリティ」の2つである。前者は個人情報保護法が制定されたこともあり、ていねいに答えることを心がけた。一方、後者は理解してもらうこと自体、非常に大変な思いをした記憶がある。

当時は（いまもそうかもしれないが）、医療機関における電子カルテは「閉域網」であり、外との交流はもってのほかであった。インフラがまだ発達していない時代に、この連携システムの仕組み自体がクラウド型のため、講演のはなから理事長、病院長たちに喧嘩を売っているようなものである。「私の目が黒いうちはITを導入しない」という思いが相手から伝わってくるときは、「タバコも酒も一切やめない」と言っている患者さんに対峙するのとあまり変わらないなと思いつつ、先生方の目はそろそろ白くなっていますが、とも言えなかった。

「ITを短時間でわかりやすく説明してほしい」とよく言われるが、「連立方程式、因数分解を習い始めた子どもたちに、微分・積分を1日で理解できるようにお願い」と言われているようなもので、無茶な話と内心は思っている。

しかし、いまITリテラシーを高める絶好の機会が訪れている。すなわち、エモテット、ランサムウェアなどに代表されるPC、モバイルへのウイルス攻撃（ここでは「マルウェア」と表記）が医療・介護の世界にも広がってきたからである。

サイバー攻撃が話題になっているが、悪意のあるソフトウェア、手法であるマルウェアの恐怖は計り知れない。なぜならいつでもどこでも誰でも、すなわちサイバー攻撃はある意味ユビキタスの世界であり、無差別攻撃

が可能だからである。

マルウェアに罹ると職場への影響は甚大であるが、それ以前に無防備過ぎる職員個人のスマホ系も危ない。あつてはいけぬ利用者情報がそこにないとも限らないからである。

この一連の動き、流れは、まるでコロナウイルスをなぞっているように見える。コンピューターウイルス予防は限界があるため、交通業界でいうところの、crash avoidance（衝突回避）ではなく、crash survival（衝突しても生き残ること）がサイバー攻撃においてはより重要、と考えている。

もちろん、予防を何重にもかけるに越したことはないが、そこにはヒト・モノ・カネとの兼ね合いが生じてくる。特に介護系施設・事業所は、小規模になればなるほど、ソフトウェア、ハードウェアなどITをこなせる職員は限られてくる。であれば、まずは職員に行政出処のYouTubeなどを閲覧してもらい、マルウェアの怖さを知ってもらうことが望ましい（内閣サイバーセキュリティセンター「NISC」をはじめ、役に立つサイトも多い）。

今回、予防（教育含め）、治療の具体的な話ではできなかったが、セキュリティ対策の基本ともいえるデータの「バックアップ」は確実にお願いできればと思っている。例えば、「毎夜自動でバックアップ」の場合、容量不足などで「今日は失敗」したら、どうやって気がつけるか。いざバックアップを使おうとしたら、「ずっと前からとれていなかった」は珍しくない。また、「ファイルをUSBメモリにコピー」の場合、毎度「同じファイル名で上書き」していないか。コピー元の機器が「コピーしている真っ最中」に壊れたら…。心配は尽きない。

コロナ対策用のBCPIは策定されていると思われるが、ぜひこの機会にサイバー攻撃に対するBCP策定も考慮いただければ幸いである。

最後に質問を1つ。パスワードってどうやったら正しく使えるか知っていますか？